

6. 解説「関連データ・用語・仕組み」: VUCA(ブーカ)と OODA(ウーダ)

VUCA とは、1990 年代に米国陸軍で使われ始めた概念で、2016 年の世界経済フォーラム(いわゆるダボス会議)で、VUCA ワールドと云う言葉が使われたことにより、ビジネスの世界にも一挙に広まり、いまや、幅広く社会的にも概念化され使用されている。

- Volatility(変動性): 変化が激しく不安定
- Uncertainty(不確実性): 問題や出来事の予測がつかない
- Complexity(複雑性): 多数の原因や因子が絡み合っていること
- Ambiguity(曖昧性): 出来事の因果関係が不明瞭で前例もない

要するに、VUCA とは、あらゆるものを取り巻く環境が複雑性を増し、将来の予測が困難な状態であり、適応力(レジリエンス)が問われる。

- 技術・手法を適用する環境が異なり、従来と同じやり方では通じないため、経験値の価値が低下し、新たな環境に適応したやり方が重要となる。
- 環境(前提条件)が連続的に変化し続けているため、ある時点/タイミングでの最適解よりも、いかに環境変化に柔軟に対応できるかが重要となる。

資料: 第1回 VUCA 時代のプロジェクトとプロジェクトマネジメントの方向性 Tetsuto Yoshikawa (m&t) note 2019/10/07 <https://note.com/ppf/n/nf7b46c4e40dd> 他

こうした VUCA 的環境下にある社会(システム)において、工場のような管理可能な環境下において計画が完璧であることを前提にした継続的改善手法[統計的品質管理手法]である PDCA サイクル[Plan⇒Do⇒Check⇒Action]が有効であるかは疑問である。予定調和型の PDCA サイクルでは、環境の変化や想定外の事態への対応が後手後手に回る。

PDCA の欠点を補い、変化が激しい VUCA 時代に対応するには、状況に合わせて、計画の前に戦略が必要であるとする OODA ループが有効である。

- Observe: みる(見る、観る、視る、診る)、見抜く
- Orient: わかる(分かる、判る、解る)、状況を判断して方向付ける
- Decide: きめる(決める、極める)
- Act: うごく(動く)
- Loop: みなおす(見直す)、みこす(見越す)

OODA ループは、アメリカ空軍大佐ジョン・ボイドが開発したあらゆる分野で適用できる戦略理論で、朝鮮戦争(1950～1953)の空中戦で、ボイド大佐比着る味方一機で敵機数十機を撃墜したとされる戦果が研究の原点とされる。

出典: 日本を支配する呪縛「PDCA」は日本ガラパゴスの概念。激変する現代社会では新しい理論が必要 松井克明 2018.10.24 HARBOR BUSINESS Online <https://hbol.jp/177097>